

「親の学習」プログラム

5ー③

家族との絆・地域へのボランティア
一家庭の教育を地域ぐるみで支える一

今日、家庭の教育力が低下しているのではないかとよく言われます。社会の変化やいろいろな影響で、家庭教育に関する様々な問題が指摘されています。

この問題の解決は、各家庭の努力だけでできるものではなく、地域ぐるみで家庭を支える環境づくりが必要だと言われています。

地域の在り方、そして家庭と地域とのかかわり方について考えてみましょう。

ワーク
1

多くの人とかかわる＝地域とかかわる積極的方法の一つである
＜ボランティア＞について考えてみましょう。

事例

近所に住む『Aさん親子』は、日曜日になると、地域にある老人ホームに出向き、おじいちゃんやおばあちゃんたちの話し相手になったり、折り紙などのちょっとした遊びを一緒に楽しんだりしているそうです。

先日、そのAさんに「今度お子さんを誘って、私たちと一緒に老人ホームに行ってみませんか？」と誘われました。我が家では、そういうことに、これまで積極的にかかわった経験がなく、どうしたらよいか判断が付きません。

※ 考えを書き、その後グループで話し合ってみましょう。

参加する際の心構え

参加することのメリット

Aさんの気持ちは？

あなたならどうしますか？

事例の続き

『Aさん親子』は、明日老人ホームに出かけるために、家でこんな会話をしています。

母 「明日は、〇〇おばあちゃんの誕生日よ。」

子 「そうか～。じゃ、何かプレゼントをしようか。」

母 「そうね。何がいいかしら。」

子 「わたし、〇〇おばあちゃんが好きなお花を買ってくるよ。きっと喜んでくれる！」

母 「いい案ね。じゃあ、お願いしようかな。お母さんはクッキーでも焼いてみるわ。」

子 「いいね。一緒に手伝うよ！」

その日の午後は、家族みんなでクッキーを焼いたりしながら、楽しく過ごしました。

わたしは、毎週日曜日にボランティアなんて、大変そうだなと思うのですが。なぜでしょうか、『Aさん親子』の表情は、いつも楽しそうで、私にはとても輝いて見えるのです。

○ <事例の続き>を読んで、考えてみましょう。考えをまとめたら、話し合ってみましょう。

Aさん親子が輝いて見えるのはなぜ？

家族一緒にボランティアに参加するよさは？

誰かのための役に立てた時、そして「ありがとう」と感謝された時の喜びは、『自分が必要とされている』という『自己有用感』と『自尊感情』につながります。ボランティアという一つの方法を通して、地域の多くの場面で「自分が役に立った」という実感を持たせることができるでしょう。

また、親子が一緒に取り組むことで、話題を共有することができ、会話が増えて親子関係がより豊かなものになるでしょう。

そして、子どもの『自分の家族に対する絆感』が、より強くしっかりしたものになると言われています。

国立教育政策研究所内 家庭教育研究所「家庭の教育力再生に関する調査研究」（平成14年）から抜粋

ワーク
2

次のことについて考え、グループで話し合ってみましょう。

- ① 今日の地域社会の特徴として「都市化、核家族化、少子化、国際化、情報化」などがあげられています。このことが「子供の育ち」に、どのような影響を及ぼしているか、考えてみましょう。

例：都市部の限界集落化が及ぼす影響

例：つながりの希薄化、孤立・孤独化が及ぼす影響

例：多文化共生の日常化が及ぼす影響

例：デジタル技術による新しいコミュニティ社会が及ぼす影響

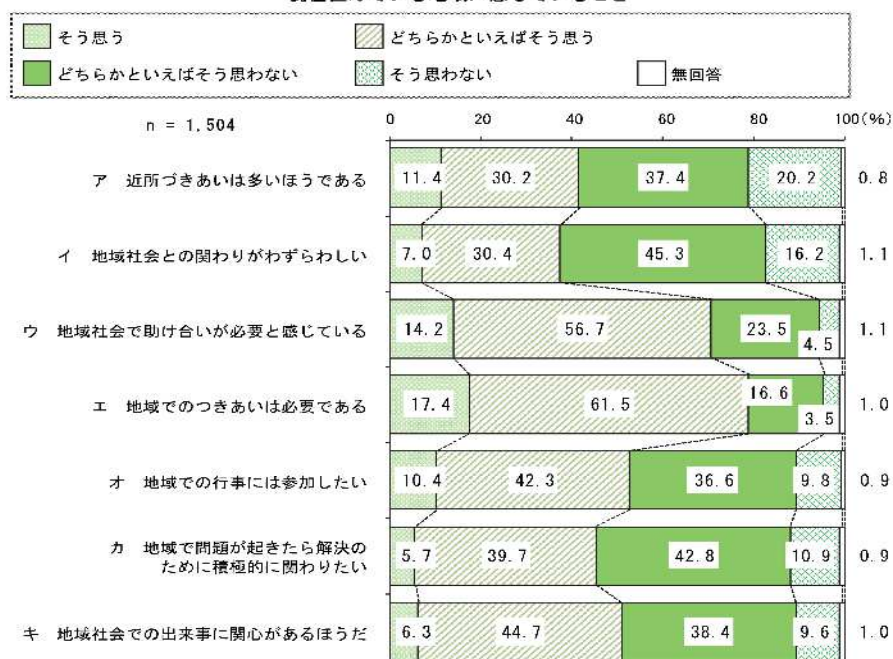
- ② 自分が成人するまでの間に、地域の人に助けられたことや地域の人とかかわり合った経験について思い出してみましょう。

助けられたこと

かかわり合った経験

多くの人との交流によって互いに刺激を受け、その中で、人間関係や社会のルール、公共心や決まりを守る意識、まじめに頑張ることや我慢することなど、子どもの多くの能力や態度が育ちます。地域の中で「どれだけ豊かな出会いの場が確保できるか」が大事です。

現在住んでいる地域に感じていること



埼玉県青少年課
埼玉県青少年の意識と行動調査
保護者等結果（令和3年）

**ワーク
3**

あなたの地域ではどんなことができますか？
＜親子でできるボランティア＞について考えてみましょう。

例えば…

町内会、自治会関係

スポーツ関係

公民館など

その他

ふりかえり

何を学びましたか？

何を感じましたか？

今後の生活にどのように生かしますか？